発生日時	平成　24 年　5 月　24 日（木）　15 時　55 分				天候	晴
工事情報	河川系事務所　一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	－	－	－	水道管損傷		
事故概要	バックホウにて表土はぎ作業中に水道管を損傷させたもの。 公衆損害事故－地下埋設物件損傷					

事故発生状況

・バックホウにて表土はぎ作業中に水道引き込み管を損傷させたもの。

・水道本管については発注図で確認していたが、引き込み管については、現地で民地側に止水栓が確認できるため、認識していたが、事前に図面の確認を行っていなかった。

【事故発生原因】

・施工に先立ち、図面確認、試掘、目視確認を行っておらず、地下埋設物に対する注意が不十分だったため。

など

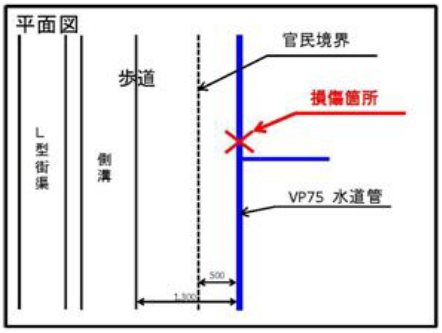
【事故防止のポイント】

・地下埋設物付近での作業については、埋設物の状況を十分に把握した上で施工を行う。

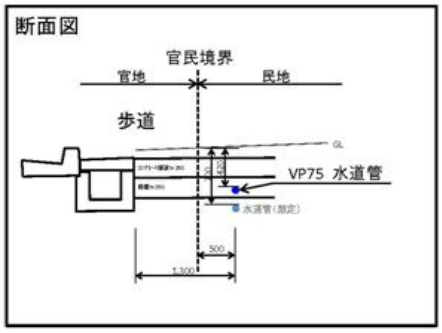
など

発生日時	平成　24 年　8 月　30 日（木）　9 時　50 分				天候	晴
工事情報	道路系事務所　維持修繕工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	－	－	－	水道管損傷		
事故概要	歩道改修における掘削作業中、水道管をバックホウの刃先で損傷させたもの。 公衆損害事故－地下埋設物件損傷					

事故発生状況



損傷直後



復旧後

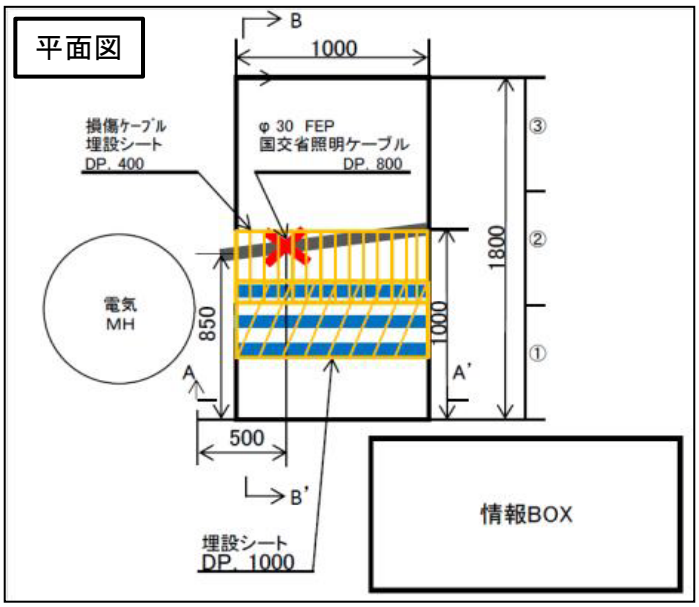
・水道管を管理者台帳で確認していたが、詳細な位置は不明であった。
・現地確認（周辺の制水弁等の確認）により水道管深さを70cm前後と想定して作業を実施。
・周辺で水道管の漏水箇所を発見し、管理者に情報提供。立会を行い、この箇所での水道管深さが70cmであることを確認。
・出入口部擦り付け箇所において50cmの掘削作業をおこなったところ、水道管深さが42cmであったため、バックホウの刃先で損傷させたもの。
・事故発生箇所においては、試掘による水道管の確認を行っていなかった。

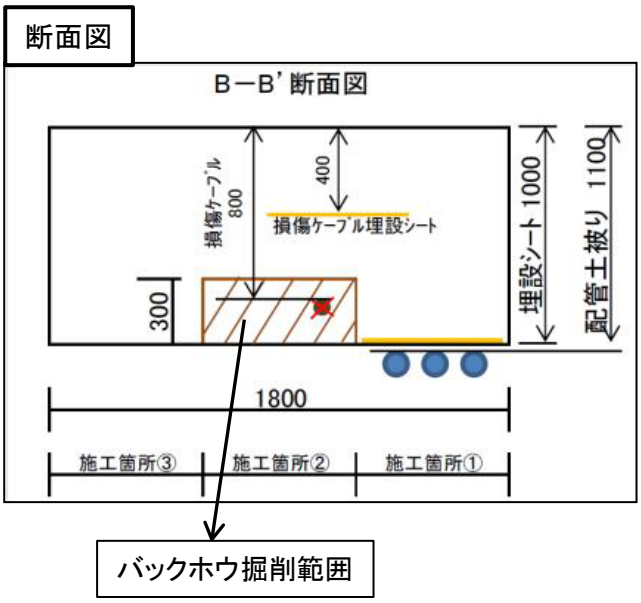
【事故発生原因】
・施工に先立ち、試掘、目視確認を行っておらず、地下埋設物に対する注意が不十分だったため。
など

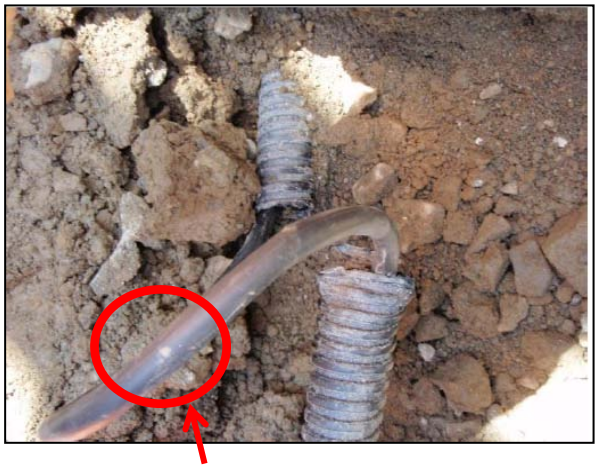
【事故防止のポイント】
・地下埋設物付近での作業については、埋設物の状況を十分に把握した上で施工を行う。
など

発生日時	平成　24 年　9 月　10 日（木）　11 時 10 分				天候	晴
工事情報	道路系事務所　通信設備工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	－	－	－	道路照明灯電源ケーブル損傷		
事故概要	CCTV カメラ設置に伴い、歩道部の既設地下管路位置確認の為に手堀とバックホウで試掘中、埋設してあった道路照明灯電源ケーブルを損傷させたもの。 公衆損害事故－地下埋設物件損傷					

事故発生状況







道路照明灯電源ケーブル損傷状況

（1）MHで配管の取り付け位置（深さ、方向）を確認し事前マーキングを実施。
（2）断面図①②③の範囲を手堀り掘削し、GL-400の位置に埋設シートを確認。
（3）①③の範囲を手堀でGL-1000まで掘削しで埋設シート確認。
（4）②の範囲はGL-700まで手堀り掘削。
（5）②のH=300の箇所には配管が無いと思い込みバックホウで掘削を行い管路を損傷させた。

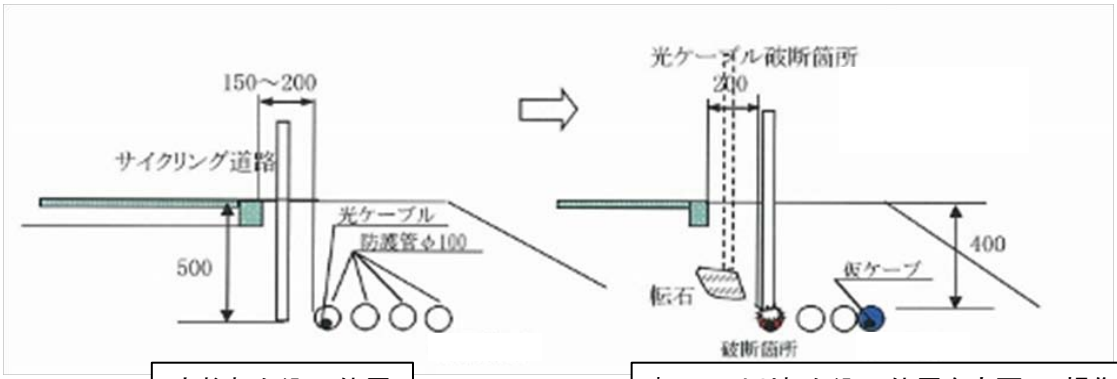
・計画書で管の近接箇所では人力にて掘削となっていたが行われていなかった。

【事故発生原因】
・埋設物近接箇所での掘削に対する安全対策不足によるもの。
など

【事故防止のポイント】
・埋設物付近での作業については埋設物の状況を十分に把握した上で施工を行う。
・埋設物近接箇所では、不用意に重機を用いて作業をしない。　など

発生日時	平成　24 年　10 月　2 日（火）　11 時　48 分				天候	晴
工事情報	河川系事務所　一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	－	－	－	光ケーブル損傷		
事故概要	堤防天端において、仮囲いの支柱打ち込み作業時に、埋設されていた光ケーブルを損傷させたもの。光ケーブルは、民間業者に貸し出しているもの。 公衆損害事故－地下埋設物件損傷					

事故発生状況



支柱打ち込み位置　　転石により打ち込み位置を変更し、損傷

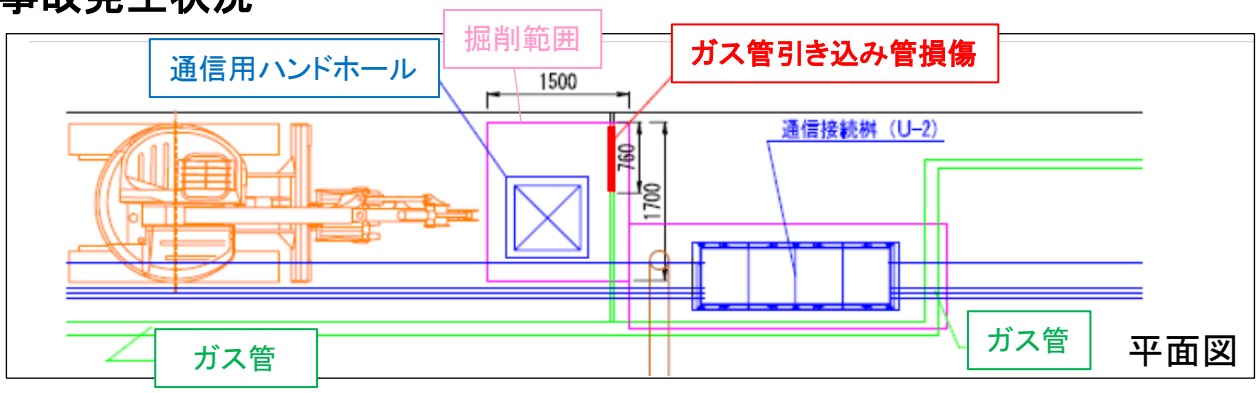
・仮囲いの支柱打ち込み作業を人力で実施。
・作業に先立ち試掘による配管埋設状況の確認（20mピッチ）を行い、水糸により打設位置を明示。
・明示されていた打設位置に支柱を打ち込んだところ転石があり、打ち込めなかったため、ずらして支柱を打ち込んだところ光ケーブルを損傷させたもの。
・作業始業時にKYにて埋設物に対する注意喚起を実施していた。具体的な作業手順書が作成されておらず、作業方法は口答指示であった。

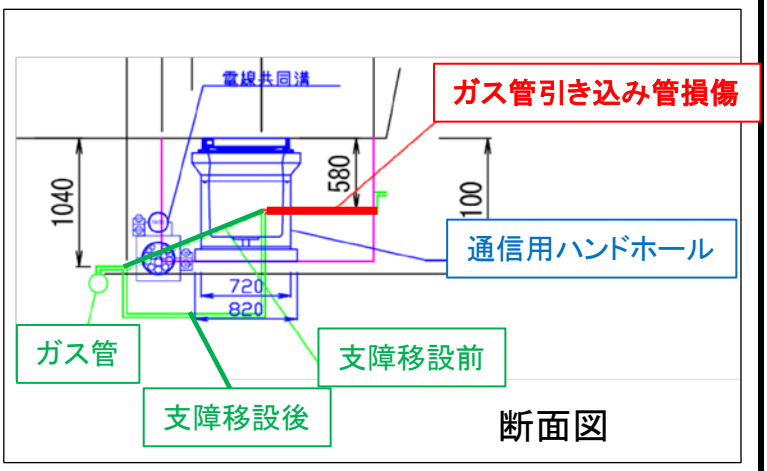
【事故発生原因】
・地下埋設物に対する注意喚起が不足していたため。
など

【事故防止のポイント】
・地下埋設物近接箇所での作業については、現場条件に合わせた具体的な作業手順を作成し、作業内容を周知・徹底すること。　など

発生日時	平成　24 年　10 月　30 日　（ 火 ）　12 時　50 分				天候	曇
工事情報	道路系事務所　アスファルト舗装工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	－	－	－	ガス管破損		
事故概要	電線共同溝の敷設のため歩道を掘削していたところ、ガスの引き込み管を損傷させたもの。 公衆損害事故－地下埋設物件損傷					

事故発生状況





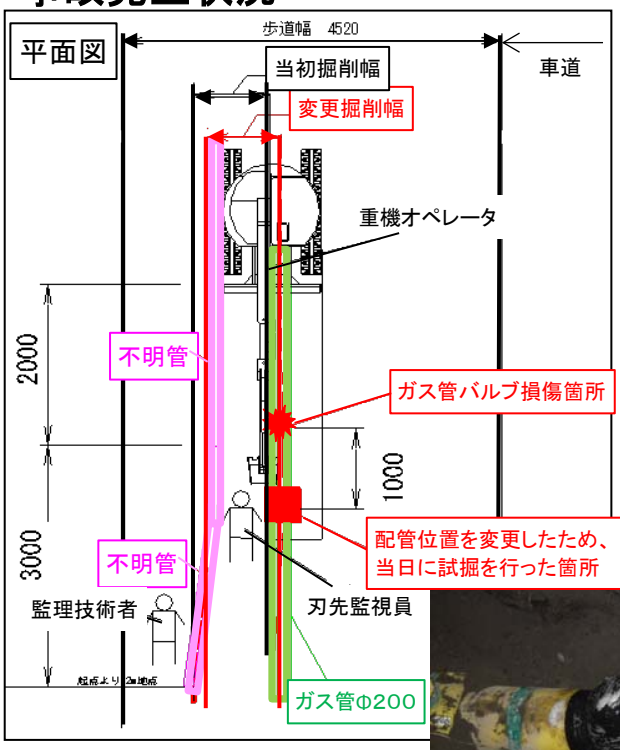
・電線共同溝のハンドホールの据付作業のため、BHで掘削中にガスの引き込み管を損傷させたもの。
・ガス管は工事に先行して移設されたものであり、施工業者は管の位置（平面・深さ）を把握しており、朝の朝礼時に作業員に図面を渡し、注意喚起を行っていた。
・他の埋設物の埋設シートを80cmの箇所で確認したことから、その深さまでは、機械による掘削が可能と考えて掘削を行い、約60cmの箇所にあったガス管を損傷させた。

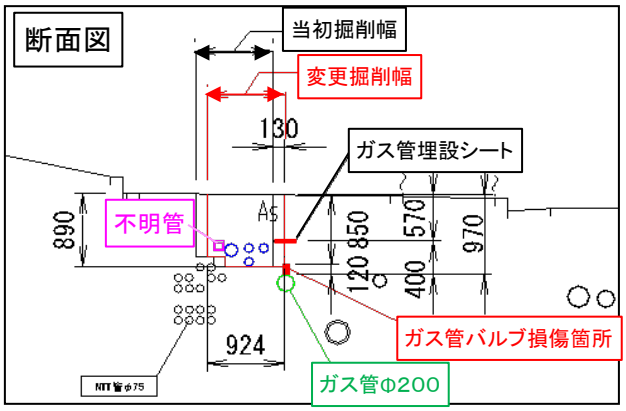
【事故発生原因】
・埋設物近接箇所での掘削に対する安全対策不足によるもの。　など

【事故防止のポイント】
・埋設物付近での作業については具体的な作業手順を指示し、作業内容を周知・徹底すること。　など

発生日時	平成　24 年　11 月　7 日（水）　22 時　17 分				天候	晴
工事情報	道路系事務所　AS舗装工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	－	－	－	ガス管損傷		
事故概要	電線共同溝の管路部を歩道に敷設する作業をしていた際、ガス管（中圧管）のバルブ部分を破損させたもの。 公衆損害事故－地下埋設物件損傷					

事故発生状況





ガス管バルブ応急処理状況

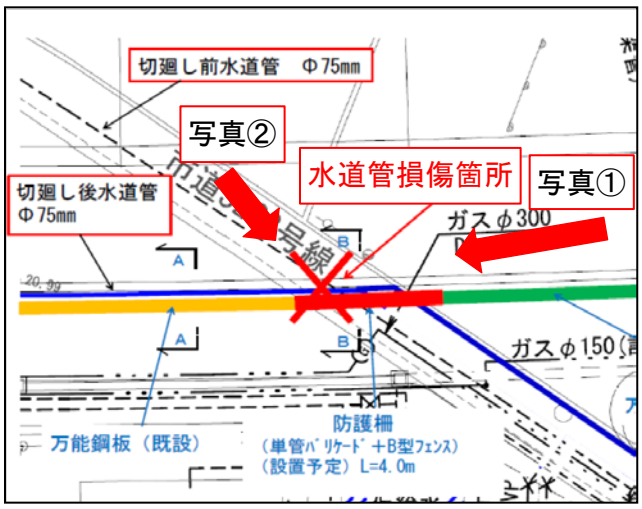
・電線共同溝の管路部を敷設置するため、掘削作業を実施。
・掘削中に、不明管が出てきたため、掘削幅が取れないため、掘削位置を車道側に変更。
・事前の試掘調査により、変更範囲にはガス管が埋設されていることを確認していた為、当日に再度試掘を行い、ガス管の深さ（H=97cm）、位置の再確認を実施。
・その後、バックホウにて掘削した際に、突起したガス管バルブを破損させたもの。
・ガス管の上には、埋設シートが設置されており、作業手順書等で、埋設シートの下は人力掘削とするとなっていた。

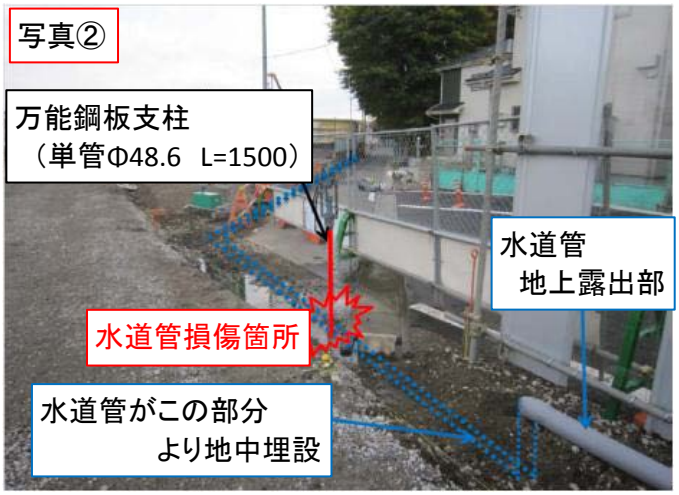
【事故発生原因】
・地下埋設物に対する注意喚起が不足していたため。
など

【事故防止のポイント】
・作業手順書を遵守するよう周知・徹底を行う。
・地下埋設物に対する安全教育の徹底。
など

発生日時	平成　24 年　11 月　13 日（火）　9 時　15 分				天候	晴
工事情報	道路系事務所　一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	－	－	－	水道管損傷		
事故概要	万能鋼板設置のため、単管パイプを打設していたところ、水道管を損傷させたもの。 公衆損害事故－地下埋設物件損傷					

事故発生状況





・水道管位置について、元請及び1次下請の職長は位置と深さを確認していた。
・当該箇所は、水道管があるため、単管を打ち込まない、防護柵を設置予定であった。
・作業員は、埋設物があることは認識していたが、詳しい位置を知らず、朝礼後、職長から現場にて指示を行うこととなっていた。
・職長が現場にて指示を行う前に、作業を開始し、水道管を損傷させたもの。

【事故発生原因】
・埋設物近接箇所での作業について安全対策が不十分であったため。

【事故防止のポイント】
・地下埋設物近接付近での作業については、十分注意するよう作業員に周知・徹底する。　など